

熊野の自然を保護するための幅広い活動

熊野自然保護連絡協議会
会長 中畠 章和

はじめに

90年度に引き続き、「残したい熊野の自然百選」の選定と紹介、「皆地ふけ田」の保護、利用、「ハマボウの森」づくり、「ゆかし渦」の生物調査と報告を中心にしながら、毎年行っている自然観察会、研究発表会、会誌、ニュースの発行などを行って来た。これらについて、前回にならって項目別に報告したい。

「残したい熊野の自然百選」の選定と紹介

会誌「三青」にさらに6か所が紹介され、全部で41か所の選定、紹介が終わった。

選定地にはかなり広範囲を1つにしている所もあり、百を選ぶのが難しくなっている。広い範囲のものの中には、幾つものポイントを含んだものもあるので、小わけすることも考えている。最初の目標の「50選」が近付いたので、単行本の刊行を目指して検討中である。

「ふけ田湿地」を保護する活動

和歌山県東牟婁郡本宮町皆地に貴重な湿地が残されており、ここを埋め立てから守る運動について、前回の報告書に紹介したが、それ以後の「ふけ田」に関する主な活動は次の3つに分けられる。

(1) 湿地の陸化を防ぐための応急処置

ふけ田は、かつては水田として利用されていたが、現在は全く利用されず、雑草が生え放題で、時折周辺の民家の方が勤労奉仕で草刈りを行っているだけ

で、ここ3～4年の内にどんどん陸化が進んで来た。91年度、町から「ふけ田の保護と利用」に関する調査とプラン作成を依頼されたが、その中で、早急に処置が必要なものとして陸化防止をあげ、5月末に行った中村市の「トンボ公園」視察の経験から、部分的に雑草や泥を取り除き開水面を作ることを提案した。放って置くと、ふけ田の代表的なトンボやオオコオイムシなど水生動物の住みかが無くなってしまふ恐れもあった。この提案は受け入れられ、まず7月21日、ボランティアによる「ふけ田トンボ救助隊」と名して、草刈り、泥上げなどを行い10㎡ほどの池を2か所作った。その後町の予算でトンボたちのシーズンオフに機械を使って、深い池や浅い池を配置した。92年の春にはかつて群飛したトンボが蘇った。

(2)町の事業としての「ふけ田生態観察公園」プラン作成

町の自然公園計画を進めるためには、財源が必要になる。国に予算要求をするための計画書を作るため、町は財団法人、日本野生生物研究センター（野生研）に依頼した。熊自連の調査報告、保存と利用のプランを参考に、数回の合同検討会をへて92年4月に「皆地ふけ田生態観察公園整備計画」として提出された。その中には、ふけ田そのものの利用のほかに、周囲の自然をも含めた自然観察路や、隣接の廃校を利用したネイチャーセンターなども盛り込まれている。予算化ができれば、いよいよ本格的に公園化事業が進展することになる。

(3)ふけ田紹介の小冊子の作成

和歌山県では、県の事業の一つとして、和歌山県全体や各地の自然紹介の小冊子の発行を続けているが、今回、熊自連に県南部の自然解説書を作ってほしいとの依頼があり、相談の結果、ふけ田に絞った解説書を作ることで話がまとまった。担当はふけ田チーム（熊自連では主な活動はチーム分けしている。）となった。91年1月にチーム内で冊子のページ数、項目などの検討、原稿分担が決まり、写真や資料揃え、原稿の校正などを経て92年4月ようやく県に原稿の手渡しができる。しかし、一部遅れた原稿（写真の関係で）もあって印刷は少しずれ、93年になる見込み。

これができれば、ふけ田の自然観察会に大いに役立ちそうである。

以上3つの点について説明したが、観察会も県、町双方が協力して行われるようになるなど、ふけ田の情勢は大変よい方向に進んでいる。

日 刊 熊 野 新 聞

第128



基本計画まとまる

皆地の「ふけ田」を自然公園に

本町では自然公園の整備を進めてきた。ふけ田の自然公園整備計画がまとまり、93年度に着手する。自然公園の整備は、自然環境の保全と、自然環境の活用を目的とする。ふけ田の自然公園整備計画は、自然環境の保全と、自然環境の活用を目的とする。ふけ田の自然公園整備計画は、自然環境の保全と、自然環境の活用を目的とする。

自然公園が計画されている「ふけ田」

ふけ田の自然公園整備計画は、自然環境の保全と、自然環境の活用を目的とする。ふけ田の自然公園整備計画は、自然環境の保全と、自然環境の活用を目的とする。ふけ田の自然公園整備計画は、自然環境の保全と、自然環境の活用を目的とする。

「ハマボウの森」づくり

ハマボウ（アオイ科Hibiscus hamabo）は関東南部から南の海岸線に生える低木で、夏季、黄色い花をたくさんつけ美しく、地元ではカワツバキと呼んで親しまれている。

しかし、生息地が河口部の汽水域のため、河川工事や埋め立てに最もあいやすい植物のひとつといえる。熊自連が積極的に保護を訴えてきた那智勝浦町下里の太田川河口の群落、同町湯川「ゆかし潟」の群落は共に規模が大きく、県でも有数のものである。

この内、太田川河口の群落は、町へ文化財の指定を陳情している最中、河川改修の名のもとに壊滅状態になったことは、前回の報告書に紹介した。

熊自連では自然生息地の減少の事態を重く見て、ハマボウを絶やさないため、移植による『ハマボウの森』づくりを計画し、苗木を育てると共に、森づくりに適した土地を探すことになった。

第一回目の試みは、6月15日、新宮市の鈴島で行われた。新宮市教育委員会、吉野熊野国立公園管理事務所の協力のもと、30株が参加者の手で植えられた。ここは、自生のハマボウも1本ある所で、定着の可能性が高いところである。その年の夏、可憐な黄色い花をたくさんつけた。その後台風の被害で数本枯れたがあとは無事である。第2回目の試みは、92年の夏、那智勝浦町湯川のグリーンピア南紀の理解を得て、同敷地内に50株移植する計画である。本来の自生地のハマボウを守っていくのが大切であるが、太田川河口の現状を考えるとやむをえない策といえよう。太田川河口の最も海寄りには私有地であるが、ここにもハマボウが残っており、条件的には最適地といえ、ここも交渉によってハマボウの森に出来ないか検討中である。

ゆかし潟の生物調査

「ゆかし潟」は、那智勝浦町湯川に位置し、郷土が生んだ文豪佐藤春夫が名付けた汽水湖である。ここが、県の自然公園化と潟に沿って走る国道42号線の拡幅を調和させて整備する計画地となった。県はコンサルタント社に環境調査を依頼し、そのコンサルタント社の間に環境庁が入って下さり熊自連が生物環境の調査を行うことになった(調査地点は図1の点線内)。90年10月に相談があり、91年8月には調査結果を報告という大変短い期間を設定されたため、何ほども調査出来なかったが、幾つかの注目に値するものもみつかった。調査は干潟の無脊椎動物(コドラートによる)、潟の魚類、周辺を含めた植物相、鳥類について行われたが、主な成果を上げると次のようになる。

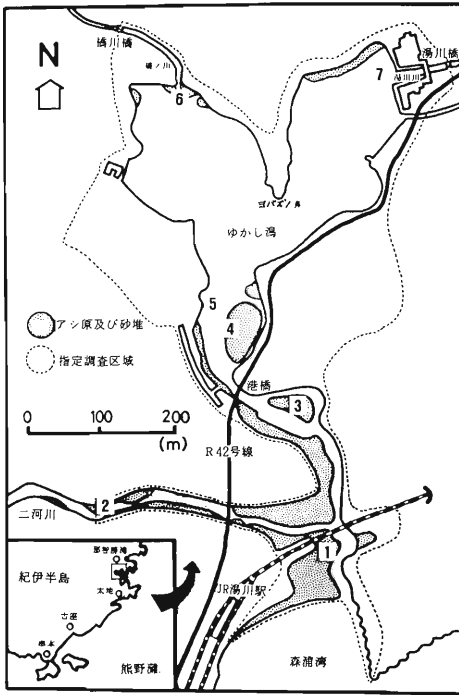


図1 ゆかし潟の位置と調査地区 (……内)

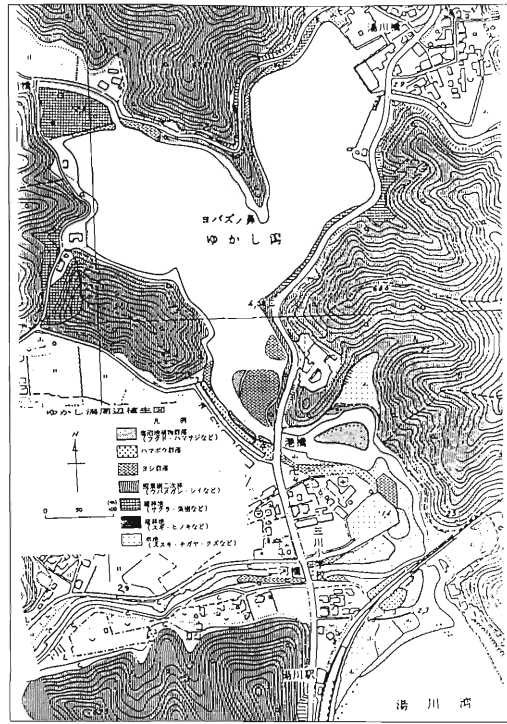


図2 ゆかし潟周辺植生図

種名	年月日	線センサスによる個体数						出現環境					備考 出現環境の補足 その他	
		'90 10 26	'90 10 31	'90 11 21	'91 01 25	'91 04 10	'91 05 30	建築物	水面	水辺	田畑	草地		山林
カイツブリ				01										川, 湖
カワウ					07	03		○	○					湖, 海
ウミウ				01				○						川, 湖, 海
ゴイサギ			01						○					川, 湖, 海, 上空
ゴサギ	03	03	01	02	02				○					川, 湖, 海
アオサギ	02	07	03	03	05	04			○					川, 湖, 海
マガモ	13	08	25	04				○	○					川, 湖, 海, 上空
カルガモ			33		02			○	○					川, 湖, 海, 上空
ミサゴ	01	02							○					川, 湖
トビ	04	02	04	04	01	05								川, 湖
キジ		01			01									川, 湖
イソシギ	04	01	03		02				○					川, 湖
セグロカモメ				01					○					川, 湖
キジバト		01		03	01	01								川, 湖
トハト	02				03	05								川, 湖, 集確認
カラキミ	03		01	01		03				○				川, 湖, 集確認
ツバメ						04								川, 湖, 集確認
キセキレイ	03	02	01	02						○				川, 湖
セグロキレイ		02	01	01						○				川, 湖
ハクセキレイ			02	01						○				川, 湖
ヒヨドリ	09	06	08	07	07									川, 湖
モズ	02	03	03	02	01									川, 湖
ジョウビタキ	02	01		02				○	○					繁殖確認
ノビタキ	03	01						○	○					繁殖確認
イソヒヨドリ	01		01	02	02	03		○	○					繁殖確認
シロハラ				01										繁殖確認
ツグミ				01										繁殖確認
ウグイス			01		03	02								繁殖確認
エナガ		23			03	01								繁殖確認
ヤマガラ					01									繁殖確認
メジロ		02	12	14										繁殖確認
ホオジロ	12	04	03	08	06	01	06	○	○	○	○	○	○	繁殖確認
アオジ			08	06	01				○	○	○	○	○	繁殖確認
カラヒタ	01			02	04	06								繁殖確認
スズメ	25	05	04	02	09	17				○	○	○	○	繁殖確認
ハシボソガラス	11	02	02	01	02	01				○	○	○	○	繁殖確認
ハシブトガラス	02			10	01	01				○	○	○	○	繁殖確認

表1 ゆかし潟周辺の鳥類

(1)小型ハゼ類の宝庫である。

出現したハゼ科の魚は、オカメハゼ、サツキハゼ、アベハゼ、ヒナハゼ、チチブ、シマハゼ、クモハゼ、ウロハゼ、ゴマハゼ、アゴハゼ、ビリンコ、ナガミミズハゼ、イドミミズハゼの13種に及び、このうちビリンコ、ゴマハゼ、サツキハゼは調査区域全域で大群集が見られた。ハゼ以外でも、熱帯性のハタタテダイの幼魚、稀魚とされるトサカギンポ、ふ化後間もないゴンズイの幼魚(ゴンズイダマ)など注目すべき種も見られた。これら小型の魚が特に多いのは、この潟と海を結ぶ川の部分が非常に浅く、大型の魚類の侵入を防ぐ自然バリアの役目をしているためと考えられる。



(2)中洲、潟岸に貴重な植物が見られる。

潟岸の南側とそれに続く川岸には、熊自連の保護重点に上げているハマボウの大群落があり、他に、少ないがハマナツメも見られる。道路拡幅や護岸工事が行われれば、これらの植物に打撃を与えることになる。中洲はフクドウやハマサジなどの特色ある植物景観をつくっているが、さらに環境庁のレッドデータブックに絶滅危惧植物としてあげられているシバナの群落も発見され、貴重な中洲であることが証明された。

以上のように、短い期間の調査であるが、大変貴重な自然環境で、手を入れるにはよほど慎重な対応が必要であることを報告した。

この報告書をもとに、県は整備計画を見直し、国道拡幅工事、護岸整備などの整備事業計画は当面中止された様である。

熊自連では、今後「ゆかし潟」の生物相の解明も重点目標にあげ、調査を続けていきたい。

観察会

観察会は年6回を目標に行っている。本年度の観察会は次の通りである。

- 1/20 冬の熊野古道を歩く (那智勝浦町)
- 6/2 ふけ田自然観察会 (本宮町)
- 6/15 ヒメボタル観察会 (新宮市)

11/17 落鮎をねらう鳥たちウォッチング（古座川町）

10/19～11/4 「三青」表紙画展

既刊「三青」の原画と写真、解説をつけ、新宮市の喫茶店で『絵で見る熊野の自然』と題して行う。

今年度は、観察会は4回と、少なかったが、トンボ救助隊としての活動、「ゆかし瀉」生物調査への参加よびかけ、「ハマボウの森」づくり、表紙画展なども合わせて行ったので実際には多くの会を持つことになった。

4月と7、8月は毎年、環境庁の自然観察会に協力している。

研究発表会

3月16日、第6回目の発表会が行われた。

和歌山県沿岸のサンゴ調査の結果報告を内田委員から、環境庁吉野熊野管理事務所長安田氏からアラスカ、テナリ国立公園の様子が紹介された。

なお、92年3月14日に第7回目が行われ、このときは、皆地ふけ田の報告、ハマボウの森づくりの現状、ゆかし瀉の生物などそれぞれのチームからの報告となった。

その他

会誌「三青」11号、12号、特集号発行

「熊自連ニュース」54～61号発行

運営委員会は月一回（第一金曜日）

自然に親しむ運動に講師派遣（環境庁）

緑の日記念行事に協力（環境庁）

紀伊半島ウミガメ情報交換会によるウミガメ保護キャンペーンポスター作成に協力

おわりに

今年度は、色々な面で熊自連にとっては節目になる年であった。ふけ田は本宮町に主役を委ねる事になったし、ハマボウの森づくりも一定の方向が見え出した。また、新しいフィールド「ゆかし瀉」も本腰を入れる事になった。「三青」表紙画展は今までの本会の活動をまとめ、広く一般にアピールする効果もあつ

た。この様に一定の成果が見られながらも、会の運営には不安が無いわけでは無い。

運営委員の平均年齢の上昇がそれである。会発足当時は30代の行動力、気力共に充実した時期であったが、それぞれが8年近くを経過し、職場でも責任が重くなり、忙しくなっている。日曜日の観察会に参加しにくい職場に勤務している者も多く、動きにくい状態になりつつある。これらを克服するには、若い者の会への参加よびかけが大きな課題となる。

幸い、本会の運営委員会は他の会の事務局が受け持つ仕事を細分し、委員会全体で事務局を構成する方式を取っているので、個人への負担をうまく緩和している。熊野の広い範囲の優れた自然を子供たちに残すため、若返りも含めて頑張りたい。



▲ゆかし湯中洲の植生調査



▲干潟の動物群集の調査



▲ハマボウの森づくりの主役ハマボウ



▲91.3.16 第6回研究発表会参加者